

事業名



人とひとを繋げる 対話の場を増やす活動

対話=フィンランドのオープンダイアローグ
置きベン=地域にベンチを置くプロジェクト

実施団体

対話之町京都 ヲ目指ス上京

7日

2023年4月7日金曜日 22:00～23:59
Tom·Andersen ひっそり研究会
オンラインイベント

リンクにアクセス

8日

2023年4月8日土曜日 18:00～21:00
うっかりトーキングサークル体験之場
Socca Co.,Ltd

2日

2023年4月2日日曜日 9:00～12:00
置きベンプロジェクト
Socca Co.,Ltd

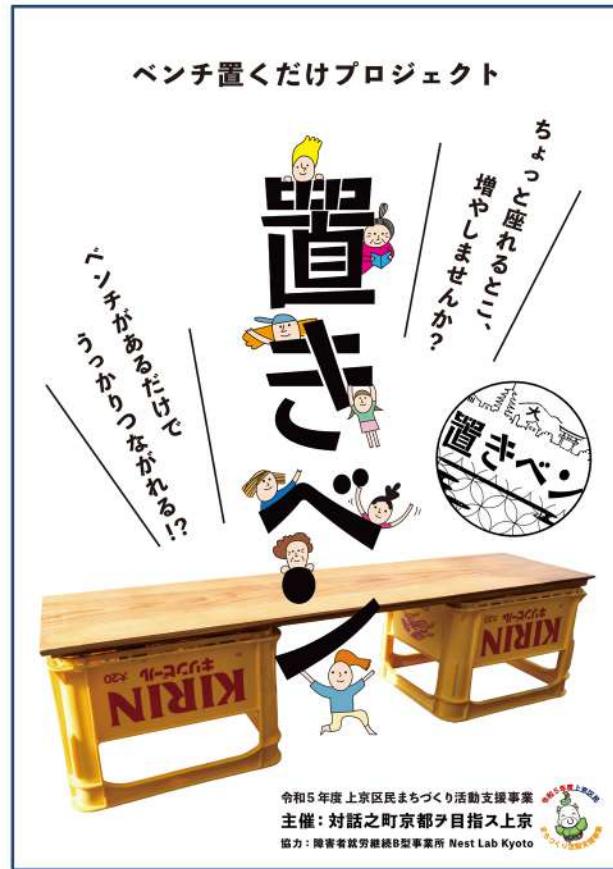
リモートによる対話の参考図書の
会読会を43回開催しました。(金曜日夜)

置きベンにてリアルの対話会を
28回開催しました。 (土曜夜)

置きベンを作るイベントを
27回開催しました。 (日曜日午前中)

人とひとが繋がる場づくりとして、リモートによる会読会(読書会)と、「置きベン」にて実際に対話を体験する機会作りと、かつての縁側、井戸端会議など、人とひとがうっかりと繋がれる「装置」としてのベンチ作りを通して、人とひとが繋がりあえる「場」を設けました。

上京発「対話を通して地域を考える」活動へ



9月には伏見区の地域圈域ケア会議へ招かれ上京での活動を紹介させて頂き、傾斜地伏見での高齢化に於ける「歩き継ぎ」としてのベンチを学びました。他区に加え高槻北部や、京丹波町でのベンチ活動にも繋がる事になりました。

12月には京大准教授藤原辰史氏・精神科医の森川すいめい氏を上京に招き、皆さんとリアルの「対話の場」を開催し沢山の来場者の声が聞かれました。追加イベントとして2月に作家の寮美千子氏を招いて対話会を開催しました。



現在発売中の学術雑誌「ナラティヴとケア第15号」へ「オープンダイアローグで開かれる地域」と題して、上京区での取り組みを寄稿。「地域とは何か」を問う。

地域移行、地域共生社会の実現、生涯地域居住など、地域という言葉がよく使われるようになった今こそ、改めて「地域とは何か」を引き続き皆さんと対話を通して共に考えて参りたいと思います。

人とひとがうっかり繋がれる「場」としての「置きベン」は「京のコシカケ・置きベン」と称し、今後は上京発として京都へ、全国へ広めて参ります。